

# ここに ある 絵本

子どもたちは、絵本を読んでもらうことが大好きです。このお話を聞くと子どもたちは「王様たちはマンゴーを独り占めしようとしたんだ」「でもお母さん（さる）は、さるが死んじゃったら悲しいから、助けたかったんだよ」など4歳児なりに感じた思いをことばで表現した。その中の一人の子のことばが特に印象的だった。

「だって人間だって同じでしょ？ 子どもが死んだらお母さんは悲しむもん」

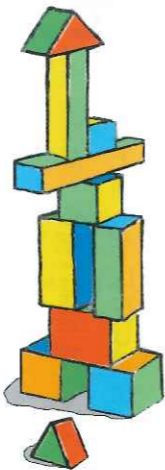
この絵本を読んだ後により自身うれしかったことは、「さるが死ぬこと」母さるが悲しむ」ということを子どもたちが感じ取ってくれたことだ。親子のきずなをこの絵本から読み取ることができる。また、どのような危険をかえりみず、どれほどの苦しみをさえも子どものためならやり通す親心が、この絵本からは伝わってくる。

人間の世界にも動物の世界にも「自利自他」の教えは通ずるものである。しかし、現実には知恵と知識を兼ね備えた人間が和を忘れ身近な者同士でさえも争うことが絶えないことを、私たちは深く反省しなければならぬ。

聖徳保育園

保育士

安江亜紀



『さるのはし』（すずき出版）

社団法人 日本仏教保育協会・編  
村岡 登 絵

## 編集後記

WBCの優勝によいしれた今年の春、イチローはインタビューの中で「みんなすごい！」と言っていた。メンバー一人一人を認められるからこそ出てくる言葉。考え方も価値観もみんな違うけれど、相手を認める心さえあれば自分の世界もまた変わってくるんだらう。

当編集委員会、出される意見がみんな違っていい。でも違う意見を認めあうその気持ちがあつといい。(^^)



〈表紙写真〉

どんぐり写真クラブ 古田雅久

発行 岐阜教区教化委員会

真宗大谷派岐阜教務所

鈴木宏雄

〒500-8054

岐阜市大門町1

Tel.(058)266-1378

編集 岐阜同朋編集委員会

No. 90

2006.5

# ぎふ どうぼう



素直って、なんてむずかしいのだろうか  
正直って、なんてむずかしいのだろうか  
素直になりたくて  
正直になろうとして  
なのに人の心にぶつかって 消えていく  
素直な心をもっているのに  
正直に生きようとしているのに  
なのに人の心に流され 埋もれていく  
みんな  
素直になれたらいいのに  
みんな  
正直になれたらいいのに.....

〈文〉 小笠原 まや

# 「家庭内暴力と

(児童虐待、高齢者虐待、配偶者への暴力)

## 真宗

佐賀枝 夏文

(大谷大学文学部教授)

### 不機嫌なわたし

仕事では、穏やかに振舞っているつもりだが、時々不機嫌なわたしを見せて不愉快にしているだろう。外での顔はさておいて、わが家における、わたしの不機嫌問題は深刻である。妻や子どもと自然に「波長あわせ」ができているときはよいのだが、機嫌をそこねるとやっかいの上ない。無表情で、笑みは消え表情筋といわれる筋は働かず、居間の風景としても困ったものである。妻や子どもは大変つらい思いをしていることだろう。直そうと、ち

ャレンジはしてみるが、よい方法が見つからない。確かに、わたしは過敏な性格で、感じやすい。テレビの音量や散らかった居間など不機嫌の原因は、ささいなことが大半だ。不機嫌の種は、悪くすれば爆発する。このようなことは、たまさかではないので、見過ごすことのできない問題だ。不機嫌の皮を剥げば、こちらは修羅場だ。かろうじて不機嫌の皮が防衛しているのが実情だ。このやっかいきわまる「わたしの現状」から、今回の家庭内暴力(児童虐待、高齢者虐待、配偶者への暴力)を考えてみることにしたい。

### 「こころの取扱い説明書」

こころの取扱い説明書というのは、わたしの担当している福祉対人援助の授業のなかで使ったワークシートの名前である。この授業は、福祉利用者である他者を理解することをトレーニングすることが目的である。わたしは「他者理解は自己理解から」を目標に、授業をすすめている。最近、これ

まで話したことやワークシートをまとめて冊子にした。この冊子の第一に取り上げたのが「怒り」である。わたしにとっても「怒り」「怒りの感情」は、第一番目に取り上げなければならぬ問題である。その内容を紹介しよう。

### こころの消化能力(怒り)

こころも胃袋のように消化能力があるように思ったので、このことをヒントに考えてみました。消化しやすい代表選手は「喜び」「楽しい体験」「うれしい出来事」でしょう。消化もよくて、そのひとの滋養になり、勇気づけてくれます。反対に困る代表選手は「怒り」「憎しみ」でしょう。消化しにくく消化不良を起こしたり、こころが傷ついたりします。わたしたちはいつも消化しやすいものを取り込みたいと考えますが、必ずしもそうはいきません。「怒り」や「憎しみ」は、できることなら取り込まないでやり過ごすのが懸命な方法です。できることなら未消化のままにしておいてください。消化したいと、決して考えないでください。消化



できないものを取り込んだのですから、時間をかけるか、時間にまかせましょう。(佐賀枝夏文「こころの取扱い説明書」三畳間文庫より)

と冊子につづっている。「怒り」は消化できないものであることは、近年の痛ましい事件が証明している。事件の真相は、ささいなトラブルを解決したいと、考えたすえ「怒り」を大きくして、「うらみ」になる。「怨念」が出来上がり、痛ましい事件へと発展した。どれも、「怒り」の感情をいじりまわした未の惨劇である。

### 暴力のしくみと「相互敬愛」

「怒り」が「うらみ」に変質するのは、家族だから、親しい関係だから、という「甘え」と「依存」の関係が背景にある。「甘え」と「依存」の関係は、丁寧さや思いやりが失われることがある。「家族なのに」「友だちなのに」という「当然」をつくりあげる。当然が通用しないと、暴力という問答無用の表現が取られることになる。暴力は悲しい表現

方法としかいいようがない。「こころの取扱い説明書」を作成する課題で、受講生、労働セミナーの管理者は異口同音に「こころは壊れやすいので大切に取り扱いましょう」とつづっている。壊れやすいこころをもった人間であることをすすべてのひとが認め合うことが必要だろう。

虐待問題、そして配偶者への暴力は、切実な家計問題、弱体化した家族で論じられることが多い。これらは背景要因ではあるが、内なるこころの修羅場を見ないまま問題を考えれば、社会経済に原因探しをすることになる。家庭内暴力や虐待を他人事としないで、一人ひとりが「いのち」と向かい合う縁となればよい。

ひとは、それぞれの「いのち」を生きる存在である。別だからこそ、そこに対話が必要となる。そして、家族や親友は、共に「相互敬愛」すべき存在である。

今回のテーマは、犯人探しや他人事から考えれば、さらに「闇」は深くなる。平穏に「怒り」「うらむ」ことなく暮らすことは理想である。暮らしのなかで「怒り」「うらみ」は、わたしたちに

はやっかいにしか見えないが、大切なことに「気づく」種であり、機縁であることは間違いない。



佐賀枝夏文(さがえなつひみ)

- 1948年富山県魚津市生まれ
- 1975年大谷大学大学院修了
- 同年より 児童福祉施設等で児童指導員、心理判定員として12年間従事
- その間に約1年間ハンガリーに留学
- 1986年大谷大学短期大学の専任講師に就任
- 現在、大谷大学文学部教授

- 資格  
臨床心理士(認定資格)  
大学カウンセラー(学会認定資格)
- 相談歴  
1983年 大谷大学学生相談員(現在に至る)
- 1997年 滋賀県スクールカウンセラー(03年まで)
- 1997年 大谷中高等学校スクールカウンセラー(04年まで)
- 2002年 滋賀県産業推進センター産業保険相談員(04年まで)

### ○出版物

『こころの取扱い説明書』三畳間文庫(2003年)

『こころの取扱い説明書』こころのサリメント編』三畳間文庫(2004年)





蓮如上人はご承知のよう  
にお勤めの形式を整えら  
れ、お内仏を中心に生活  
するよう勧められた方  
です。お内仏は皆さんのと  
ころにありますね。お内  
仏はお仏壇のことですが、  
お仏壇を中心に生活する  
とき、お仏壇とは言わず  
お内仏といえます。お内  
仏とは先祖壇でも位牌壇  
でもありません。たとえ  
どなたもお亡くなりにな  
っていない家でも、お内  
仏はある方がいいですよ。  
このお内仏にお参りする  
ことによって家族全員が  
育てられるという意味が  
あるんです。仏様の智慧  
によって育てられる、こ  
ういうのがお内仏です。

おつじ  
スムーズ

# ご本尊？？？

## ◆「ご本尊って何？」

人それぞれ、「本当に尊いと感じるもの」は違います。「本当  
に尊いこと」が何なのか明らかでないという人もいます。ま  
た、年を経ると変わっていくこともあるでしょう。そんな「本  
当に尊いこと」を「形」にしたものを、「ご本尊」といいます。  
明らかだったり、明らかでなかったり、変わっていったり、  
心の移ろいによって様々な「本当に尊いこと」ですが、真宗  
のお内仏では南無阿彌陀仏を「ご本尊」とします。浄土教典で描  
かれる阿彌陀仏の姿を絵像や木像で「形」にして、礼拝勤行  
します。

## ◆「ご本尊の「形」って？」

ご門徒に授与されるご本尊は、絵像のご本尊です。阿彌陀仏  
が蓮台の上に立ち四十八本の光明がさしています。阿彌陀仏  
の姿やはたらきを、像や絵で表現してきた長い間の営みがあ  
って、現在この形で描かれています。

この絵像本尊の裏には必ず、「方便法身尊形」と記載がありま  
す。「ほうべんほっしんのそんぎょう」と読みます。本来、色  
も形もないといわれる法性法身（永久不変の真理そのもの）  
を、仮に方便して、形で表した尊い姿であるということが表  
されています。

## ◆南無阿彌陀仏を「ご本尊にするって、どういうこと？」

法蔵菩薩の物語をご存知でしょうか。その昔、法蔵菩薩は、私たち全ての衆生  
を救いたいと願いを起こされたといわれています。長い間思惟し修行を重ね、遂に菩  
薩は阿彌陀仏となってその願いを成就されました。それから阿彌陀仏の御名  
を称えるものは極楽浄土に迎えられるのだ、という教えが仏説無量寿経とい  
うお経に説かれています。ですので、阿彌陀仏に救われたいと願う人にとって  
ご本尊は南無阿彌陀仏ということになります。



若い頃一番たのみにするのは、我が力、我が思いなのではないでしょうか。  
健康を願うとか、物欲を満たしたいと願うならいざ知らず、南無阿彌陀仏で助けら  
れたいと始終願っているような人は誰もいません。  
右を向いたり、左を向いたり、「南無阿彌陀仏を「ご本尊とする」なんてほど遠いよう  
な生活をしていても、南無阿彌陀仏の教えを一つ一つ聞いて、毎日の生活の中で確  
かめていく、それが南無阿彌陀仏を「ご本尊とする」ということなのです。

### 「蓮托生」(いちれんたくしやう)

「蓮托生」とは、死後、浄土に往生して同一の蓮華に身を託すこと、と辞書にあります。最近では「死んでまでも一緒にいたくない」と、お墓を別にする人も増えていきます。そういう人にとって「蓮托生」はありがたくないでしようし、反対に、死んでも一緒にいたいと思う人にとっては「願ってもない」言葉となるでしょう。

でも、どちらも間違っているのです。浄土は、私たちの願望を膨らませて実現した世界ではないからです。

私たちの直接的な願望を親鸞聖人は「愛憎」と表現されています。その愛憎のままで「蓮托生」すれば、ヤケクソで運命を共にする意味にしかありません。

運命という言葉を使うならば、私の都合に先立つてすでに運命を共にしているのが私たちの「いのち」の事実です。しかし私たちはその事実を暗いため、愛したり憎んだりしながら身勝手な都合のいい生き方に「いのちの満足」を求めているのです。

愛憎を膨らませていく私たちの未来には、本当にこの「いのち」を生ききったという満

足は生まれません。むしろ、私たちの都合、愛憎が、いのちに背く罪として照らされてこそ、いのちは本来のみずみずしさを取り戻すのです。

「蓮托生」は、愛憎をくり返すしかない私たちの生が、愛憎を超えて未来に一つの華となつて開くことが託されている生であることを、今ここに指し示す教えの言葉なのです。

壇山和成(はにやま かずなり)  
大谷専修学院指導  
月刊「同朋」2002年6月号より

## 四字熟語

### 朝令暮改(ちやうれいぼかい)

第35代米国大統領のジョン・F・ケネディが日本で敬愛する政治家としてあげた上杉鷹山(うへすぎ きやうざん)とは、江戸後期の米沢藩主。財政を斬新な政策と決断力で立て直し、藩政を改革した類い希な人である。

そんな、鷹山が、自らの戒めにした言葉が『朝

令暮改』。

『大辞泉』(小学館)で調べてみると、「朝に出した命令を夕方にはもう改めること。方針などが絶えず変わって定まらないこと。朝改暮変。」

とある。中国の「漢書・食貨志」などでもそうだが、普通この言葉はいい意味ではほとんど使われない。ところが、この『朝令暮改』と言う言葉を鷹山は独自解釈した。

『改めることにはばからない』といえど、気がついたらすぐにあらためるべし。

つまり、間違いに気づいたら、人にどう思われようが潔く改める勇氣と心の柔軟さを持つことの大切さを意味する言葉と理解した。鷹山は、とても意志の強い人だったが、この言葉を大事にし、身分にとらわれずいゆるんな人の生の声に耳を傾け、間違いに気づけば自らの政策をすぐに変更した。間違いに気づいても政策を改めることができないう権力者がいかに多いことか。周りの多くの真実の声を聞くうとしない権力者がいかに多いことか。

本物に出会うために『朝令暮改』を潔しとする柔軟さを持ちたいと心から願う。

榎田 昭裕

## 風をかんじて

### 「我聞如是」

馴染みの方もおみえになるでしょうが、僕の地域には月参りというものがある。毎月、門徒さんの御命日に伺い、読経する。その月参りでの出来事である。ある門徒さんから何とも真つ直ぐな質問を投げかけられた。

「お釈迦様は覚りを開かれたというが、何を覚られたのでしょうか？」

これを聞いた時、僕は「来たな」と思った。こういう質問がいつか飛び出るのではないかという覚悟をし、今まで学んできたことの中から自分なりの答えのようなものを日頃から考えていたからだ。とはいえ人前で説明するのは初めてのことであり、何ともぎこちない門徒さんは、その私の拙い話を聞いて「ありがとうございました」と言ってくれました。きつと本当



第六組 法啓寺 豊島 秀龍

に納得された訳ではないと思う。ただ、必死に話す僕の姿に「これ以上聞いては申し訳ないかなあ」と思われたのだと思う。

この質問の後、事ある毎にこの門徒さんからの質問を考えるようになった。あのように話したが、本当にそうなのだろうか。覚りとはなんぞや。理屈では分かっている、覚ることのできない凡夫である自分が口にして良いことであつたのか。その時、経文の読み出しがふと頭を横切る。『我聞如是(がもんによぜ)』僕はこのように聞いていると。

### 考えさせられる言葉

私が真宗と出会つたのは三年前、同朋大学仏教専修別科で一年学んだのがきっかけになります。自ら強く望んで選択した訳ではないですが、縁あつて真宗を学ぶはこびとなりました。

勉強熱心ではない私ですが、よく耳にし、考えさせられる言葉が「出会い」「縁」です。

考えてみても、二十五年間生きてきて、数えきれない人と出会いを重ねてきて、これから先もっと多くの人と出会うことになるでしょう。私が同朋大学に入ったことひとつとつてみても、同窓の学生、先生、その他にも真宗と縁がある



第三組 安浄寺 多々良 明成

人と多く出会うことができました。一つの出会いをきっかけにその世界が広がり続けるものです。現在は、民間企業の一社員として勤務しています。寺に住んでいてもなかなか真宗を考える余裕はありません。しかし、自分自身が多くの「出会い」「縁」によってつながっていて、生かされていると感じる今日この頃です。